

2050 国土のグランドデザイン

対流促進型国土の形成



— 今日日本が直面する
大きな「危機」とは…

2014年7月に「国土のグランドデザイン2050」対流促進型国土の形成」を発表しました。これは、2050年の目指すべき国土の姿やそのための国土づくりの理念、基本戦略などを示したものです。

日本は今、大きな危機に直面しています。まず急速に進む人口減少です。日本は2008年をピークに人口減少局面に入りました。昨年の合計特殊出生率[※]は1.43と低水準で、このまま推移すれば2050年には人口が1億人を割り込み、約9700万人になると推計されています。これに伴い、人口の地域的な偏在が加速します。特に人口減少の著しい地方部では、若年人口の減少により、消滅する自治体が数多く発生するという指摘もあつてます。また、切迫する巨大災害もありま

す。東日本大震災があり、そして首都直下地震・南海トラフ巨大地震の30年以内の発生確率は70%とされています。今後の国土づくりを考えるに当たって、巨大災害への対応を考慮に入れないわけにはいきません。

— キーワードは
「コンパクト+ネットワーク」

日本の国土を縦横1kmのメッシュに切つて推計してみると、全国の現在人が居住している地域の約6割で人口が半減以下になり、またその3分の1、全体の約2割の地域では人が住まなくなる…今回の調査で現れた数字です。

少子化と同時に高齢化も進み、地方圏では高齢人口は2025年をピークに減り始めますが、東京圏は2050年まで増加の一途をたどります。大都市と地方での病院・介護施設・福祉施設の不均衡（ミスマッチ）も大きな課題の一つとなるでしょう。

人口減少が進んだ2050年の地方で、現在存在するサービスのすべてが成り立つことはあり得ません。サービスを効率的に提供していくためには、機能をコンパクト化することが必須です。さらにコンパクトになった地域は「ネットワーク」で支えていくことも重要です。コンパクト+ネットワークにより、「新しい集積」を形成し、効率性を高めて、より大きな付加価値を生み出す国土づくりが可能となるのです。

個性を磨いて多様性を生み、連携しながら対流を起す

もう一つの大切な言葉が「多様性と連携」です。

人口減少社会においては、それぞれの地域が横並びを脱し、個性を深めていく必要があります。自分たちの持つ

個性を磨き上げ、深い固有性を獲得すれば、それは世界的な普遍性を持つことにもなり、日本の新しい成長エンジンになります。その上で、個性ある都市同士が単に交流するのではなく、主体的に連携していく国土づくりを目指していきます。

そして、ブランドデザインの副題にも表されている「対流」です。対流は温度差があるときに発生します。これからは個性のある地域の間で人・モノ・情報の対流が生まれることが大切になります。どこを切り取っても同じという「金太郎飴」のような状態では対流は起こりません。対流のエンジンは個性なので、常に各地域が自分たちの個性を磨いて多様性を生み出し、それらが連携しながら対流する国土づくりが重要なのです。

ブランドデザイン基本戦略

- 1 小さな拠点と高次地方都市連合等の構築
- 2 攻めのコンパクト・新産業連合・価値創造の場づくり
- 3 スーパー・メガリージョンと新たなリンクの形成
- 4 日本海・太平洋2面活用型国土と圏域間対流の促進
- 5 国の光を観せる観光立国の実現
- 6 田舎暮らしの促進による地方への人の流れの創出
- 7 子供から高齢者まで生き生きと暮らせるコミュニティの再構築
- 8 美しく、災害に強い国土
- 9 インフラを賢く使う
- 10 民間活力や技術革新を取り込む社会
- 11 国土・地域の担い手づくり
- 12 戦略的サブシステムの構築も含めたエネルギー制約・環境問題への対応

ブランドデザイン 実現のための戦略

ブランドデザインでは12の基本戦略を打ち出しています。そのうちいくつかをご紹介します。

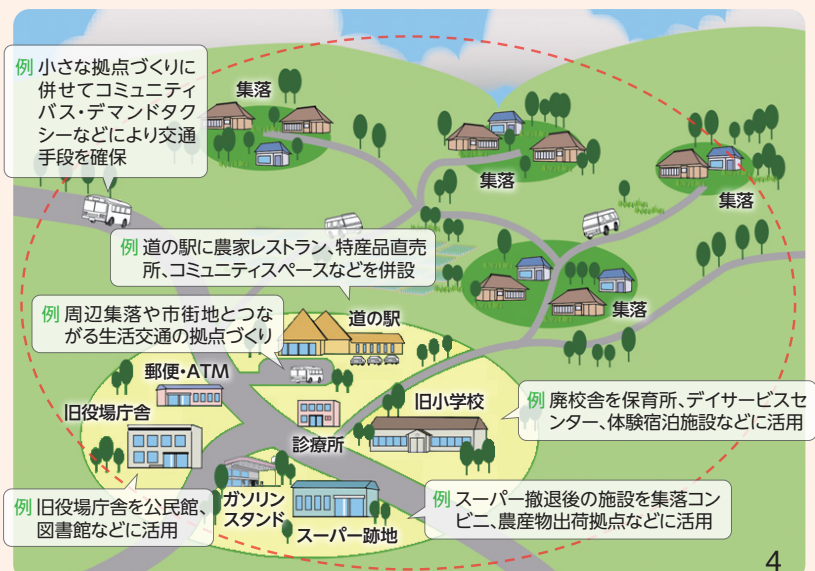
● 小さな拠点

都市圏よりもさらに小さな地域、山間部などの集落が散在する地域では歩いて動ける一定のエリアに商店や診療所などのさまざまなサービスを集約して、ワンストップでサービスが受けられる「小さな拠点」づくりが有効です。

この場合、居住地から拠点に集まるための手段が必要になります。「コミュニティバスなどの交通手段や宅配サービス、情報ネットワークなどを使って、日常生活を補うだけでなく、雇用を生み出すなど新たな価値をつくっていくことを考えています。

● 高次地方都市連合

大学や救急救命センター、映画館など、高度な都市サービス機能を維持するために30万人規模の人口圏域が必要ですが、これも人口減少によりいずれば縮小してきます。そういった複数の都市などが交通ネットワークを活用して人口を確保し、お互いにさまざまな機能の役割分担をし、連携をしていこ



小さな拠点のイメージ

うというのが「高次地方都市連合」です。例えば鳥取県米子市の都市圏人口は2010年調査では32万人以上でしたが、2050年には20.9万人になると予想されています。これでは30万人都市圏が消えてしまいます。しかし隣の島根県松江市までは高速道路を使えば30分足らずで行ける距離です。米子市と松江市が市町村の境界を越え連携すれば、30万人都市圏を維持することもできるのです。

● スーパー・メガリージョン

グローバル化が進みます

